

令和3年度市政懇談会
「ゆかり市長とまちかどトーク」意見交換要旨

.....

開催日時 : 令和3年6月24日(木) 19:00~20:16
開催場所 : 湖南公民館(講堂)
参加者数 : 35人

.....

【発言者】

農業に関して方針を伺いたい。農地が宅地になりそこに人が住む。移り住んで来る。無計画な宅地造成が行われ、宅地の中に虫食いの的に農地が残されていくことが見受けられる。一級農地が日陰になり車は増え農業がしづらい。都市計画で住み分けを進めるのか。それとも、個人の持ち物だから自由に売買していいのか。

【市長】

農地に家を建てて宅地化し、そういうことが繰り返されて来た。急峻で小さな区画で住んでいた人達が、平らで広い土地に家を建てて出て行くという人口移動もある。いろんな事情もあるかもしれないが、農家の収入が難しく、その息子たちが後を継いでくれない。そういう中で高齢化してきた農家のみなさんが、土地を手放してしまうような状況もあり、家を建てたい若い人たちに売買するといったことが行われてきたと思う。

農地を宅地にするのには、農業委員会の認可が必要になる。定期的に審議していただき、ルールの中で認められたところが農地転用という形で宅地になっている。

【発言者】

生産労働人口が減少し、特に外国人実習生を受け入れていかなければ農業はやっていけない。一過性の今だけの事かというところも言えず、今の子供や出生率を見ていくとさらに増えていくと思う。ロボット化もあるかもしれないが、やはり人の手ということで、日本人でなくても外国人でもいいと思う。外国人を受け入れていく地区のあり方は、行政でサポートしていると思うが、周知されていないと感じる。そういった外国人を受け入れて、住みやすいまちにしていくことも必要なのかなと思う。

【市長】

コロナで外国人人材の活用にブレーキがかかった面がある。言葉の壁、様式や文化の違いはあるが、相互理解しながら乗り越えていくことが大事。行政としてもサポートしなくてはならない。困りごとや、生活の仕方などに対してしっかりと情報提供していくことが大事。アフターコロナの時代になった時には、いろんな交流がまた復活してくると思う。

【発言者】

農業の分野で割といいのが直売所。農協でも直売所の売り上げは伸びている。千葉へ行くと、観光客がたくさん通る道があり、直売所がたくさんある。地元の魅力を発信する意味では、諏訪にはいろいろな分野の農産物があるので、例えば後山の野菜や、霧ヶ峰高原の野菜や花もあるし何でもそろろう。諏訪産100%の何かができればいいなと思う。

【市長】

行政が直売所を作るのは難しいが、そういう想いのある生産者がいらっしゃることがわかった。

【発言者】

諏訪湖は諏訪の魅力である。どうやって売り込んでいこうとしているのか。柳並線が開通して諏訪湖が直接見えるようになり駅西側が非常に良くなったが、駅東側しか下車できないのは何とかならないのかなと思う。

【市長】

みなさんのご協力で柳並線が開通し、直接諏訪湖が見えるようになり、観光地としては大きなアドバンテージとなった。これを生かすために西口は重要。地元区や事業者のみなさん、商工会議所からも西口整備の要望をいただいている。現状は、上諏訪駅東口を出て、観光地の旅館街は西口なので、高架橋を渡って西側へ行く。バリアフリーどころか不便なことは承知している。駅のことでもあるので様々に形が変わらないと難しい部分がある。今年度からの2ヶ年で、駅周辺まちなか再生推進事業により、国交省、県、UR、UDC、JRと連携して、将来どんな対応ができるのかを研究する。連続立体交差化についても、どうしていくか非常に難しい課題。JRとは建設部が窓口となり協議を重ねてきている。魅力的なまちに向け、まちをリフォームしていきたい。

【発言者】

平和宣言都市、障害者福祉推進都市などの三角形の立て看板、いわゆる宣言看板

について、ただ語っている看板では意味がないのでは。

【市長】

歴史の中で市民とともに宣言をしたことは非常に価値があると思う。宣言を共有することは意識の中で違うと思う。大々的に宣伝しているわけではないが、その意識は継承されていると思う。

【発言者】

小中一貫教育について、今年4月から上諏訪小学校と上諏訪中学校が始まった。子供たちの反応は非常に良いと聞いている。残った3地区に関して、前倒しして始めるということはないのか。当初の計画通りいくということか。

【教育長】

上諏訪小学校・上諏訪中学校は、東部地区第1期ということで、子供たちはとても活発に、生き生きしている。建物の問題もあり、市内全てを同時に進行していくことは難しい。西部地区の豊田小・西中は、南部に比べると、建物がまだ新しい部分もあり順序もある。教育の中身については、それぞれ建物が違っても一貫教育的なものができる。一貫教育の中身については令和5年から始まるが、学校のくくりなどについてはもう少し時間がかかる。

【市長】

当初の計画通りに進めていく。将来的には、諏訪市内に3つの小中一貫校としていくという長期目標。教育長が回答されたように、できるところから取り組んでいく。

【副市長】

本日は湖南公民館に多くの方にお越しをいただきありがたい。コロナ禍、このような形で開催させていただいた。本日は令和4年度をスタートとした5年先までの諏訪市の目標計画の概要をお話させていただいた。今から5年前、今のこのコロナの状況を誰も想像できなかったと思う。そのぐらい先を見通すのが難しい状況にある。諏訪市では、市長へのてがみやメールなどいつでも受け付けているので、遠慮なくお寄せいただきたい。全て市長が必ず目を通し、希望の方には回答申し上げている。引き続き意見・要望をお寄せいただきたい。(閉会)

.....

開催日時 : 令和3年6月29日(火) 19:00~20:26
開催場所 : 中洲公民館(講堂)
参加者数 : 22人

.....

【市長】

第六次諏訪市総合計画の話に入る前に、諏訪市にはいくつか魅力があると思う。まずは、みなさんに諏訪の魅力をお尋ねしていきたい。

【発言者】

諏訪市の魅力はやはり諏訪湖。日本の中心だと思う。その諏訪湖を中心とした豊かな自然。それを基にいろいろできるというのが諏訪市の一番の魅力。

【発言者】

山、高原。やはり魅力的なポイント。

【発言者】

文化や諏訪大社があることと、精密工業あること。頭がよい人が多いということ。自然に恵まれていること。

【発言者】

高島藩があったことで、神社仏閣が多いこと。これをもう少しみんなが関心持つことが必要。霧ヶ峰はみんな大好き。綺麗な水を大事にしたい。

【発言者】

関東からの交通の便がよく、非常に便利。

【発言者】

諏訪市はコンパクトでいい。かりんちゃんバスなどあり、買い物できる店がたくさんある。ある子育て中のお母さんは、とても便利でいいと言っていた。その便利さを忘れてはいけない。広い市町村は交通面で大変な部分があると思うので、諏訪市はそういう点で、お年寄りでもずっと住める。

【発言者】

田舎過ぎず都会過ぎない。コンビニまで何十分ということはないので、住みやすい。

【発言者】

温泉があることも忘れないでほしい。どこへ行っても温泉がある。

【市長】

たくさんの魅力を語っていただき、うれしく思う。そうした魅力をさらに磨いて、課題については一緒に知恵を働かせ、さらにより良いまちを目指していきたい。

(市長より第六次諏訪市総合計画について説明)

【発言者】

みんなが暮らすためには生活基盤、産業を育成していくことが大事。収入がなければ子育てもできない。経営者にとって魅力あるまちづくりとは何だろうと感じた。税制の問題も。工場ができればその工場排水や自然の問題もある。諏訪湖や霧ヶ峰などいい資源がたくさんあり観光客が来る。しかし、現実には我々は日常生活を営んでいる。観光客が諏訪湖の遊歩道を自転車で走り回り迷惑している。公園内も普通に乗っている。観光客を誘致しているから黙ってはいけないという感覚があり、日常生活をしている市民にとっては迷惑。観光客は金を落としているということに認めてしまうことが嫌。生活している人が大事。その中に観光客をどうやって取り込んでいくか。観光客には、ここに住んでいる人がいるということを知ってもらい、楽しんでもらうことは必要で、我々は我々で、せっかく来てもらったのだから楽しく過ごしてもらいたいという意識も持っていないといけない。両立を考えないといけない。観光客は好き勝手にやって、今度は住んでる我々がここには住みたくないとなりかねないので、そのバランスを考えないといけない。観光だけで諏訪の人たちが食べているのであれば誰も文句は言わないと思うが、そうではない。

【市長】

経営者が諏訪で事業を立ち上げたいと思うような場所にするとすることは大切な視点だと思う。

観光客・観光のことは、そういう気持ちを持った住民がいらっしゃることを参考にさせていただく。

自転車については、湖周サイクリングロードの整備が進んできた。かつては遊歩道に自転車が入り込んでトラブルがあったという時代があった。今はサイクリングロード整備を周囲16Km進めている。歩く所、走る所に自転車が乗り込まないというルールはきちんと作っている。

【建設部長】

湖周サイクリングロードは、令和3年度工事は発注しており、令和5年度末に2市1町全てのサイクリングロードが開通する予定。令和5年度末には諏訪湖スマートインターも開通するので、令和5年末には交通体系が大きく変わってくると期待している。

【市長】

自転車が公園内を走ること、遊歩道に自転車を乗り入れることは禁止。交通ルールとして守っていただくようにしたい。

【発言者】

基本方針の都市空間という中に通信というのは含まれているのか。

【企画政策課長】

都市空間という項目では、ハード面とソフト面の両方を盛り込んでいる。いわゆる都市基盤整備と、みなさんが気持ちよく暮らしていただくためのIT、ソフト部分も担当部局と協議をしながら盛り込んでいくことになる。

【発言者】

コロナ禍で仕事のあり方が変わってきている。私は東京にスオフィスがあり、東京で仕事をして、週末は自宅に戻って来るという生活を25年ほどしていた。コロナになり、今は諏訪で生活をしながら東京の仕事をするようになった。実際にこれができる。通信が良くなりどこでも仕事ができるので、それを逆手にとって、どこでも仕事ができるのだから諏訪行こうという方向を打ち出せないか。都会に若者が集まり、田舎は高齢化が進んでいる。そういう若い人を呼び込むチャンスだと思う。別荘地の建物を借りてそこで仕事をしてくださいということをしている企業もあるが、意外と不便。近くにコンビニ、レストラン、電気店などある所が便利。そういう面で、空き家を活用するべき。それから、実際に5Gが使えるのは、東京の新宿や池袋など限られたエリアしかない。実際に5Gが使えるのはまだまだ先だが、通信会社を呼び込んで5Gが使えるようにして、サテライトオフィスを諏訪に作ってもらうことをすれば、定住する若者を呼び込めるのではないかと思う。人が増えれば税収も増え活気も出てくる。御柱においても集まる若者が減っている。20代30代の若者が増えないと活気が上がらない。そういった意味で基本方針の中に通信インフラを入れ、諏訪に行きたいという若者が増えるような方針を入れてほしい。

【市長】

すわっチャオの中に繋ぐスペースということでコワーキングスペースがあるが、それのみならず、リモートテレワーク、ワーケーションなど産業観光的な側面から新しい時代に即応した働き方が進化してくると捉えている。すでに今年度事業の中に、そうした取り組みを入れている部署もある。

5Gはまだ浸透してきていない。そういう環境を整えてアドバンテージを作ることも大切。

【企画政策課長】

基本方針33項目の産業に雇用スタートアップ支援がある。この中にワーケーションやテレワーク環境などを盛り込んでいく。

【市長】

この地域にもオフィスを用意されている自治体もあり、その場合、個人デザイナーやクリエイターは来やすいが、大企業がコロナ禍、家で仕事をするだけでは立ち行

かない部分もある。法的整備ができていない部分もある。経団連、旅行代理店、官公庁で絡み、そのトライアルに諏訪市は手を挙げ試行的に働き方をやってみようとしている。新たな時代にいかにアドバンテージを持って地域の魅力作っていくことは大事なテーマだと思う。ご意見を参考にさせていただく。

【市長】

ここからはフリートークということで、普段感じていること、市政に対するご意見ご提言等、ご自由にご発言いただきたい。

【発言者】

先頃国勢調査に基づく速報値が公表された。諏訪地域、近隣市町村で人口が増えているのが茅野市、原村、南箕輪村。諏訪市は少し減っている。この人口が増えている市村は、自然環境の良さが共通していると感じる。南箕輪村のホームページを見たが、移住定住促進サイトというものがとても充実していて、移住を希望する子育て世帯向けの情報発信メニューが豊富。子育て支援の情報だけでなく、村の雰囲気や身近な生活情報もきちんと書いてある。何も知らずに移住を考えている人にとっては参考になると思う。南箕輪村は村民の9割が、今後も村に住み続けたいということのよう。諏訪市の場合は、ずっと住み続けたいというのは、55.3%。南箕輪村に比べると少し低いと思う。もうしばらく住みたいという方も、18.8%だが、この数字は転居の可能性があると思うので、あてにできない数字かと思う。コロナ禍で出生数が減っており心配している。人口減少に対しどのように考えているのか聞きたい。

【市長】

人口減少は小手先の政策で増えるものではないと思う。戦後日本は、戦中に何百万人という方が戦死し、その反動もあったかと思うが、昭和21年から数年の間に爆発的に人口が増えた。団塊世代ジュニアによりまた人口が増えたが、それが今、少子化となり1年2年というタイミングで人口が増加することは厳しい。100年、50年のウェーブ。日本全体が人口減少していく、超高齢化しているという状況。20世紀に入る前も少子化はあったが、全体のバランスがまだ人口増であった。そこでの切り換えが少し遅れてしまったのかもしれない。人口減少を止めることが目的とするのは、何かを見誤ってしまうのではないかとも思っている。個人個人年齢も違えば、家族構成も違う。目標も違えば、仕事も違う。そういう人たちがどのステージでも満足感、幸せ感があることが大事。人口が増え子供がたくさん生まれれば幸せかかたということじゃない。ただし、社会を維持していくために子供は生まれたい。子供が欲しいとのに諦めている人は救われて欲しいと思う。子どもを産みたい人には産んでほしいと思うが、そうではない選択をされる方もいらっしゃる

るので、それぞれの人たちが幸せを感じられることが大事。

諏訪市は 20 世紀中頃から後半にかけて産業のリーディングカンパニーが集積していた。当時人口も多く、労働者も多かった。ところがそのことにより地価は上がり若い人が家を建てようとした時に手が出ないので、通勤圏 30～40 分で通える場所に家を建てた状況もある。今は、空き家が多くなり有効活用してくださいということで、今年度から空き家の活用に対する補助金メニューを用意したところ好評で、予定した予算をクリアしているような状況。少しずつそうした工夫をしながら、諏訪に住みたいと思える人たちを呼び戻したい。

南箕輪村のホームページについては、参考にさせていただきたい。

【発言者】

若い人が家を建てるのに郊外や村の方が有利ということはよくわかっている。仕方ない部分もあると思う。ただ諏訪市で子育てしたい方も大勢いる。諏訪市で子育てしたい人は、その希望がかなうまちになってもらいたい。

【市長】

諏訪市では数年前にあゆみステーションというワンストップの子育てに関する窓口を設けた。それからは子育てに関する市長への要望メールが大幅に減った。今後、みなさんからいろいろな声を聞かせていただき、行政に反映していきたい。

【発言者】

先日、あるお母さんが、あゆみステーションに行ったところ、とても丁寧に対応していただいたということで好評だった。こういう好評が積み重なっていけば、諏訪市は子育てのかなうまちになると思う。

【発言者】

中洲の用水路の改修についてお伺いしたい。私が区役員になった十数年前から水路の改修を継続して要望している。十数年経った今もまだ実現できていない所がある。先日農林課に聞いたところ、予算枠や市全体で見ると優先順位を考えた結果、回ってこないという回答をいただいている。今も雨が降っているが、ゲリラ豪雨等の大きな被害はこの用水・排水であろうが同じだと思う。想定していませんでしたという話ではないと思う。予算の中でという話は理解するが、農林課の予算が足りないなら市全体の予算の中で優先順位的なものを考えていただき、改修をお願いしたい。

【市長】

水路改修についてはいろいろ課題がある。今おっしゃった水路の場所はすぐに頭に浮かばないが、用水は農事組合や農業組合などが管理する施設となる。それを改修する場合、補助金に該当するが、その組合がやりますと言わないとできる事業で

はない所もあり、その辺の整理をされて組合のみなさんとやりたいとなっているのか。

【発言者】

要望している水路は一般的な小さな河川で、組合うんぬんではなく、区民が必要なもの。区民全体の総意として、農家の総意として改修していただきたい。全部を市で負担してほしいというわけではなく、区からの出費、按分については、負担するので市にお願いしたい。

【市長】

別の機会に関係者のみなさんに集まっていただき、具体的に話をさせてもらう。

【農林課長】

各地域で同じような要望があり、地元の方が地元負担金を負担するので、市で整備して欲しいという箇所が何ヶ所もある。限られた予算の中で優先順位をつけさせていただき進めている。おっしゃった水路については、お待ちいただいている状況。ご理解いただきたい。

【発言者】

要望が3つある。

1つは、議会の傍聴を何回かしているがバリアフリーになっておらず、足の悪い方がうまく入れない。お金のかかる話ではあるがご配慮いただきたい。

2つ目は、昨年度、主任児童員をやっており、コロナ対策で小学校と保育園の消毒に行かせていただいた。特に保育園の子どもたちのおもちゃの消毒がとても大変だった。我々が消毒して、先生たちに助かったと言っていたが、自分たちがやってみて、とても大変な作業と感じた。先生たちは子どもがお昼寝している間に、おたよりを書きながら、全部の消毒をする。その消毒だけでも機械を使ってできる方法はないか。この先コロナが収束したとしても子供たちが口にすることを消毒するのは必要だと思う。先生たちに負担の少ない方法を考えてほしい。

3つ目は、市の公用車でくわえタバコをしながら運転しているのをよく見かける。車といえども職場だと思う。禁煙、受動喫煙防止と市が言っている手前、勤務中にタバコを吸っているとは冗談じゃない。職員の健康維持、市民の信頼を得るという観点でも襟を正すべき。

【市長】

重要なお指摘をいただいた。議会棟のバリアフリー化はすぐというわけにはいかないが、議会と相談していきたい。

【健康福祉部長】

今年の1月から3月にかけて、こどもたちが卒業を目前にしている一番大変な時期、コロナの波が来ている時に、民生児童委員、主任児童委員さんにご協力いただきありがたい。現場からも感謝の声が出ている。保育の仕事は大変だが、時代に合わせ

る中、改革をしながら働き方について見直しをしていこうと考えている。ただし、必要なところには必要なお金、人材を充てなくてはならない。全体の中で考えさせてもらいたい。負担のかからない範囲で、地域の方と交流と言う意味でもご協力いただきたい。

【市長】

保育園の消毒について、ひと部屋におもちゃを集めて、オゾン発生器のようなもので、一晩寝かせて除菌するというのは可能なのかなど、研究課題としたい。

【副市長】

庁舎はもちろん、公用車も当然禁煙。職員がくわえタバコで運転していたとなるとお恥ずかしい話。大変申し訳ない。さらに指導を徹底したい。

【市長】

受動喫煙防止条例制定を今期の公約にしているが、担当している健康推進課のスタッフ全員総出によりコロナワクチンの対応をしている。本任期中に完成したい。市民の健康、受動喫煙防止、健康長寿という意味で非常に重要な施策でもある。くわえタバコについて、きちんと対応していく。

【発言者】

中洲公民館を利用する機会が多い。この公民館のスリッパが滑りやすく、転びやすい。40足、2万円前後だと思うので買い替えてほしい。それと椅子式の階段昇降機を取り付けてほしい。100~200万円で、すぐというわけにはいかないと思うが検討してほしい。

【市長】

ご要望として聞き置くということにさせていただきます。

【発言者】

今コロナワクチン接種が進んでいると思うが、今後の目途は。

【健康福祉部長】

今、清水町体育館を中心に集団接種をしている。国の方針に従い、まずは高齢者ということで、65歳の方について通知を出させていただき集団接種している。併せて6月18日から、市内23医療機関で個別接種が始まっている。そのご案内もしているところ。国は7月末までに高齢者の接種を終わらせなさいという目標を立てており、それに向かいながら努力しているところ。その後は、基礎疾患のある方を中心に接種が進むように、今準備を進めている。7月7日過ぎくらいに、64歳以下の方に通知を配らせてもらい、大規模接種会場や職域接種など様々な形で接種ができるよう、接種券がある方が手続きしやすいことから、配りたいと考えている。ただし、一気に予約を始めてしまうと混乱が起きてしまう可能性があるのです。

年齢である程度区切りながら案内していく。さらに、これまではコールセンターの予約としていたが、64歳以下についてはネット予約できるよう準備を進めている。最終的にどの時点で接種完了となるのか難しいが、国が言っているとおり10月11月にはインフルエンザが出てくるので、それまでにはしっかり接種できる体制を作っていきたい。

【市長】

市内23の診療所で、ワクチン接種に協力をいただいている。ホームページ、今月の広報すわに案内が出ている。選んで予約をすることが可能。みなさんのご協力をお願いしたい。

【副市長】

本日は市政懇談会、ゆかり市長とまちかどトーク中洲公民館に参加いただきありがたい。コロナ禍、どのように開催していくのがいいのか迷い悩み考えた上、このような形で開催をさせていただいた。多くの方と集まって意見を交わしたりすることが難しい状況が続いている。市長へのてがみやメールなどいつでも受け付けているので、遠慮なくお寄せください。全て市長が必ず目を通し、希望の方には回答申し上げている。(閉会)

.....

開催日時 : 令和3年7月1日(木) 19:00~20:28
開催場所 : 豊田公民館(講堂)
参加者数 : 35人

.....

【市長】

第六次諏訪市総合計画の話に入る前に、諏訪市にはいくつか魅力があると思う。まずは、みなさんに諏訪の魅力をお尋ねしていきたい。

【発言者】

自然、農業、工業などのバランスが取れている。いろいろな所を旅行したが、これほどそろっている所はないのではと感じる。

【発言者】

諏訪湖。母なる湖と言うくらい。昔の諏訪湖に戻るようみんなで努力してほしい。

【発言者】

諏訪湖、山、自然の中で生きている。霧ヶ峰にソーラー発電があり景観が良くない。人がいなくなると自然が戻ってくると言うが、うまく調和を取りながらかなと思う。霧ヶ峰もいいが、西山の方が面白いと感じる。

【発言者】

「ずくを出す。」という言葉がいい。静岡県にもあるが、非常にいい言葉だと思う。大切にしていきたい。

【市長】

諏訪の精神性を大切にしていきたい。諏訪の魅力をみなさんと一緒に磨いていければと思う。

(市長より第六次諏訪市総合計画について説明)

【発言者】

市の活力は、人口に尽きると思う。今日現在の諏訪市の人口は、4万8767人。これは昭和46年とほぼ同じ。ピークが平成13年かと思うが、この時、5万3900人程度。先ほどの説明の中で、人と投資を呼び込むという話があったが、思い切った投資をすることが必要ではないかと思う。諏訪市の魅力は、諏訪湖によるところが非常に大きい。諏訪湖をもっときれいに魅力あるものにしたほうがいい。ワカサギが大量死してしまったことはマイナスイメージ。夏になるとヒシがはびこって景観を損ねる。その辺をもっと気にしてもらいたい。とにかく諏訪湖をもっときれ

いにしてもらいたい。

【市長】

今、日本全体が超高齢少子社会。人口を増加させることは至難のわざ。戦争中に何百万人という方が亡くなった。その反動もあり、戦後、団塊の世代と言われている数年間にたくさんの子供が生まれ、それが一つの塊のように人口を押し上げた。それからジュニアの時代がまたあり、またそこに小さな山といった推移があった。昔のような人口だけで経済が動いていたところが、今は全く違うベクトルに入っている。20世紀の価値観からすると、人口が減っていく社会は心配かもしれないが、歳をとっても健康で元気で、趣味に仕事にやってらっしゃる方がたくさんいる。一人ひとりがやりたいことができ、幸せを感じて生活していくことに価値があるのではないかと思う。ただ人口だけというのは、いろいろな考え方があるのではないかなと感じている。

諏訪湖について、ワカサギの大量死やヒシのことがイメージダウンに繋がっていることは、おっしゃる通りだと思う。長野県が中心になり諏訪湖創生ビジョンがあり、諏訪市も参加している。そのビジョンの指針に基づいて、今諏訪湖の魅力を増すために諏訪市としてもしっかり取り組んでいきたい。

【発言者】

人口は減っていく方向にある。高齢化も進み働ける人も減っていく。総合計画で人口のことは考えているか。予想はあるのか。

【市長】

ここで国勢調査の速報値が出ている。社会人口問題研究所や国の機関が示した諏訪市の人口減少ラインがある。速報値を見ると諏訪市は概ねそれを維持しているか少し頑張っているというところ。人口ラインについてほぼ6市町村の平均値。

【企画部長】

人口について、まちひとしごと創生総合戦略があり、令和2年度の人口目標を4万7838人と立てた。ここで、国勢調査速報値が出て4万8774人。速報値ではあるが、約1000人目標値よりも多かったという結果。人口は減っていくが、その落ち幅をできるだけ少なくしたいという目標を立てている。総合計画の中でも、なるべく落ち幅を低くしていき、2040年に4万3000人、2060年に4万人を維持していく目標を立てている。

【発言者】

総合計画にSDGsなど入っており、非常に網羅性のある抜け漏れがほとんどなくて良いと思った。具体的に何をやるのかが重要かなとも思う。

諏訪市の魅力の1つは市長が女性ということ。ダイバーシティは重要で、人を呼び

込む上でも、女性、若い人、外国人など、いろいろな価値観をたくさん入れて欲しい。市の幹部の女性比率はどのくらいか。自治会の区長はほとんど男性。女性がそういう所で活躍できないのはいろいろな事情はあると思うが、そこへ切り込んでいくと良い諏訪市になると思う。

【市長】

具体的に何をするのかについて意識して計画を作っていきたい。ダイバーシティの要素も取り入れていきたい。諏訪市の部課長職の女性は24%くらい。

【企画部長】

今年度は女性課長の誕生が非常に多く、4人の女性課長が誕生し、全部で7人、24%程度となる。諏訪市は女性議員も非常に多くこの分野ではかなり先進的。

【市長】

総合計画についてはここで区切りとし、フリートークとしたい。

【発言者】

先日、市役所のある部門へ質問したところ、返ってきた回答文の下には担当者の名前しか書いてなかった。上司がどこまでその内容を承知しているのかわからない。単に担当者の意見を書いただけなのではという感じ。そういったマニュアルがないのではと思ってしまう。公民館のサークルについても、どういう条件でサークルになるのか職員に聞いたが、職員によって言うことが違った。契約事務についても同様。最近長野県から派遣されてきた方がいたみたいだが、その報告書もない。長野県にも聞いてみたが報告書はないということだった。とにかく報告書を作らない。地方自治法233条に、成果報告書を作りなさいというものがあり、主要な施策の成果報告書というものが出ている。その中の医療介護連携推進事業について、委託している4項目だけ書いてあるが中身が書いていない。この数年で1億円以上をつぎ込んでいると思うが、報告がなくて心配している。

【市長】

市政に大変関心を持っていただき、意見をお寄せいただきありがたい。

具体的にお聞きしないと何ともお答えしにくい部分もあるが、担当の責任で質問にお返しすることも場合によってはある。市長あてに来たメールは私が全て目を通して。担当課から上がってきた回答も目を通して。報告書についても、文書として残さなくてはならないものは保存年限も含め、決められたとおりに作成・保存している。相当な部分についてもマニュアルを作っている。課題があれば市長あてのメールなどでいただきたい。

【副市長】

行政の文書については文書管理規程などにより運用しているが、そのように映っ

ているということは受けとめた。個別の案件があれば確認していきたい。

【質問者】

ライフドアには1億円以上払っているが細かい報告がない。主要な成果報告書には、例えば、講演会を何回行ったとか、医療介護を何回行い、何人出席し、どんな成果があったとか、そういった報告が全く書いてないことに驚く。委託した項目が書いてあるだけ。そこに1億何千万円もつぎ込むとは考えられない。

【高齢者福祉課長】

ライフドアと諏訪市では、毎月定期報告会を行い、月例報告をもらっている。また四半期ごとと、年度末には1年間を通した報告書をもらっている。

【副市長】

地方自治法に定める成果報告書の中に、ライフドアに委託した中身のことをもっと書くべきだというご指摘だと思うので、意見として受けとめさせていただく。

【発言者】

総合計画の説明を聞き感銘を受けた。シンプルでいいと思う。今の報告書の件は、書類をきちんと残しておいてもらえれば、報告はシンプルでいいと思う。報告書や文書はみんなに見せる必要はない。まず必要な人たちが見られるようになって、次に最小限のものを他のみなさんに報告する形がいいと思う。区の総会はそのようにして、総会資料はなるべく減らし、聞きに来た人には正確に答えられるよう内部では資料をきちんと作っておくようにしている。

先日、区内の危険木の件で建設課へ相談に行ったが、それぞれいう言うことが違って困った。土地をチェックしなくてはいけない、次はどこどこでというように。最終的には全部やってもらい感謝しているが、何度か相談し結局3ヶ月かかった。一度相談に行ったら担当者が責任者となって、一本化してもらいたい。担当者にもっと権限を与えてほしい。私の嫌いな言葉は、ほうれんそう。一律な仕事をする場合は組織としていいと思うが、ある人が権限を持って決めていく場合自主性がなくなる。もっと担当者に権限を持たせて、その人と打ち合わせすれば決着つくという形にしてほしい。

【市長】

嬉しい部分も含めて聞かせていただいた。公平・平等ということも配慮をしながら行政を進めている。工夫をしながら取り組んでいきたい。今、市役所はスマート化推進係に専門職員を置きデジタル化を進めている。デジタルツールも使いながら負荷を低減できるように努力していきたい。

【企画政策課長】

必要などころに力を注ぐためにシンプルにできるところはシンプルにスマートにしていく。スマートな市役所を目指していきたい。

【発言者】

有賀区では3温泉を引いている。温泉街の話は除いて、地区に対する温泉の考え方をお聞かせ願いたい。

【市長】

温泉上水下水に関して長期計画を作った。定期的に管を入れ替え耐震化し、投資的な経費をかけながら営業していくことで進めている。

温泉は天与の恵み。最近若い人が公衆浴場に入らなくなり共同温泉の利用が減ってきている、いろいろな課題があることは承知している。公共が一定の料金で個人宅に配湯できる環境があるのは全国的に珍しく、なかなかできることではない。失くしてしまうのはもったいない。この恵みをできるだけ多くの市民が享受できるように考えていきたい。決算報告を見る限りは、しばらくこの制度を続けていけると思っている。みなさんにもご利用いただきたい。家に温泉が引けることは、他の地域の人が聞くとうらやましがられる。そういったところもアピールして大切な温泉を引き継いでいきたい。

【副市長】

県内はコロナが落ち着いてきているように見えるが、全国規模、世界規模で見るとまだまだ。そんな状況の中このような形で開催したところ、多くの方に参加いただきありがたい。今日言えなかったことなどあれば、市長へのてがみやメールなどでお寄せいただきたい。必ず市長が目を通して。回答をお望みの方には全てご返事申し上げている。(閉会)

.....

開催日時 : 令和3年7月2日(金) 19:00~20:26
開催場所 : 四賀公民館(講堂)
参加者数 : 24人

.....

【市長】

来年度からスタートする第六次総合計画を今作っている。その話に入る前に、みなさんに諏訪の魅力をお聞かせいただきたい。

【発言者】

街と山、自然がすごく近く、このような環境の土地はなかなかないと思う。観光で訪れる方にとっては、非日常的というか特別な土地と思うのでは。

【発言者】

自然はもちろんだが、やはり歴史。古くは縄文時代からの歴史が息づいている。

【発言者】

諏訪大社。

【発言者】

諏訪湖。毎日通っており癒される。四季折々。

【発言者】

自然環境、歴史もあるが、工業力。物を生産する力がある。

【発言者】

やはり自然。スイスのルロックルという所は霧ヶ峰の景色にそっくり。今の諏訪はそこから離れ始めている。自然を大事にする意味合いが違ってきていると感じる。お金を生み出さなきゃいけないと言われ、いろいろ崩れてきている。魅力がなくなってしまうのではと危惧している。

【発言者】

諏訪はオアシスと感じる。ほっとする。人口は少なくなっているが、5万人になってほしい。

【発言者】

暮らしていくのに便利。少し車で走れば、山もあり日本の一番いい所だと思う。

(市長より第六次諏訪市総合計画について説明)

【発言者】

将来像の、高原湖畔が言いづらいかもしれない。高原はなくてもいいのではと直

感的に思った。

【発言者】

なかなかいい発想、表現だと思うが、その下の「シゼンとヒトがつながる、すわ。」私はこの方がいいなと思った。

【発言者】

魅力の架け橋と言った瞬間、昔、諏訪湖に橋をかける、上川大橋というイメージが浮かんだ。また実現もあるかなと思った。

【発言者】

魅力の架け橋、高原湖畔都市、よいと思う。

【発言者】

諏訪を出てみてわかったが、やっぱり諏訪湖。圧倒的。日本でナンバーワン、ナンバーツーの富士山や北岳を一目で見ることができる。こんな場所は他にない。

【発言者】

魅力の架け橋、高原湖畔都市という言葉は、市の人々が作った造語だと思うが、私たちは高いところに住んでいる。意外と忘れがち。忘れてはいけない。高原湖畔都市イコール諏訪市が日本全国に広がることは素敵なこと。

【市長】

高原湖畔都市というワードをインターネットで調べると、諏訪市しか出てこない。これは特権だと思う。湖畔都市と言うのは霞ヶ浦や琵琶湖など結構あるが、標高の高い所に湖がある所は諏訪市しかない。

【企画政策課長】

以前は高原湖畔都市を検索すると一番上にヒットしたのですが、今はなかなか出なくなっているが、いずれにしても高原湖畔都市イコール諏訪市というように、あらゆる手を尽くしていきたい。

【発言者】

響きがいいなと思った。山、自然などの言葉をすぐ使いたがるが、高原湖畔都市はここでしか使えない言葉なのかなと思った。ドンピシャだと思う。

【発言者】

現実とのギャップを感じる。今そういうものがないから目標にするのだろうが。

【市長】

総合計画についてはここで終了とし、フリートークとしたい。

【発言者】

小学生の子供がいる。諏訪市は自然が豊かで、都市機能と大自然が近くにある。子供に自然を触れさせられるすばらしい所だと思うが、遊びづらいまちだなども

感じる。道路が狭く、ほとんど歩道がない。その割に車は多い。子供が自転車に乗って遊びに行くという習慣が薄い土地だと思う。自転車に乗る環境においてはハードルが高い。全国的に見ても、スケートボード、BMX、マウンテンバイクなどで遊べるスケートパークといった施設ができている。諏訪市にもぜひ作ってもらいたい。魅力あるまちづくりの1つのアイテムとして有効だと思う。

【市長】

現在、諏訪湖周に16キロのサイクリングロードを整備している。ランニング、ウォーキングするレーンと、自転車で回遊するレーンを分けて着々と進めている。高速で走る自転車は車道を走るのがルールになっている。マウンテンバイクは山中のオフロードを登ったり下ったりすると思うが、そういう場所を定めるのはまだハードルが高いので、ご理解いただきたい。

【副市長】

マウンテンバイクやスケートボードがどのように活用されているのか私も学んでいるところ。施設整備はすぐに取りかかることはできないが、自転車を使った観光やまちづくりという切り口で考えていければと思っている。

【発言者】

先日、茅野市の工場から未処理の排水が流出した問題で、川で大量の魚が死んだ。この排水が新井浄水場に入っているのではないかという話を聞いた。四賀に住んでいる者にとっては、下流域の諏訪市がもっと声を上げた方がいいのではないかと思う。浄水場の水質検査をする、広報で情報を流す、排水対策などの予定はあるのか。

【市長】

ご心配と思う。報告書によると、銅が溶け込んだ未処理の排水が約2トン流出し、周辺の水田に流入したため、原状回復するよう流出させた会社と地主が話し合いをしている。排水が下流の上川にどのくらい流れ込んでいるかは、現在、県と茅野市で調査中と聞いている。その調査結果はまだ届いていないので、今の段階でコメントすることはできない。諏訪市としても新井浄水場の水源があるので、念のため検査をしている。

【水道局長】

上川で水質検査をしたというニュースがあり、ご心配と思う。新井浄水場の水源は地下水で、地下70メートルから140メートルくらいの井戸から取っている。上川水系、宮川水系から近いためご心配されると思うが、表流水を取っているわけではないので影響ははっきりしないが、念のため昨日5本の井戸の水質検査を開始した。結果等が明らかになれば開示していきたい。

【発言者】

上川水系で田んぼ作っている。今年大きくいろいろ変化している。まず、ワカサギの採卵が中断した。手長えびも捕り始めてすぐ中断した。今年は、ワカサギも一般の川に遡上しなかった。鯉も遡上しなかった。これは上川水系の東側だけと聞いた。新聞発表では6月7日にアマゴが死んだというニュースが出たが、その前から未処理排水の流出があったのではないかと疑ってしまう。6月7日の報道によると県と茅野市は調査に動き出したとある。諏訪市はどう動いているのか。

【市長】

心配と思う。この件について、原因の発生元である会社や周辺の水路などは茅野地籍のため茅野市の管轄となる。上川から諏訪湖の水系は県が水質調査をするため、県から結果報告をもらうことになっている。諏訪市としても、一番影響のある諏訪湖漁協に確認した。漁協組合長から、諏訪湖漁協は今回の流出に関し影響はないと回答いただいた。ワカサギが今年は登って来ないことなどは、自然の生態系の話なので、1点の理由だけということは考えにくいと思う。いろいろな原因が絡み合い、いろんな現象が起こってきているので、影響がゼロだと言い切れないが、そういう見解をしている。だからと言って良いというわけではないので、県や茅野市の調査報告を待って対応したい。調査結果を受け取ったところでお伝えしていきたい。

【発言者】

新型コロナワクチンについて、今はまだ年齢層が上の段階で、下の方に降りてこない。岡谷や茅野に比べると遅れていると聞く。ワクチン接種をどんどん進めてもらいたい。

【市長】

65歳未満の方達はお待ちいただいている段階。諏訪市の状況は、集団接種会場でスタートし、65歳以上の希望されるご高齢の方たちは7月末までに2回目の接種を終わらせるという目標。集団接種会場に加え、市内23診療所での個別接種が始まる。基礎疾患がある方は、優先接種の希望を6月28日に締め切りし、1回目の予約を取っていただいている。65歳未満のみなさん2万3000人位には7月7日に接種券を発送する予定。60代、50代というように年齢を区切って、1週間ごと段階を踏んで予約の受け付けをするルールを作っている。待ちきれない方は、接種券を持っていれば集団接種会場での接種が受けられる。11月の末までには、すべての希望する市民のみなさんに接種が終わる目標で計画している。慌てず落ち着いて予約していただければと思う。ここへ来て、国から県を通してワクチンの配分ペースが落ちますという話もあるが、みなさんにご心配かけないように準備を整えていることをご理解いただきたい。

【副市長】

現在、諏訪市の住民は約4万8000人。このうち65歳以上が約1万5000人。この1万5000人のうち、ワクチン接種したいと希望されている方は約8割で、7月末までに終わる見込み。64歳以下の方は、7月7日に接種券を発送する予定。ただし、基礎疾患のある方は64歳以下でも、すでに接種券を発送しており特殊な取り扱いをしている。

【発言者】

最近、上諏訪小・上諏訪中という形で再編した。次は四賀小・南中エリアになるかと思う。いつごろ実現するのか。大まかなスケジュールは。

【教育長】

四賀地区は南部地区というくくり。中学校区という言い方があり、ここは南中が近く、四賀小、中洲小、南中の3校が協力体制を組み、様々な研修や交流教育を行っている。西部地区は西中を中心に豊田小、湖南小。今回は東部地区ということで、高島小、城北小。この2校は、子供の数が非常に減って何とかしようということで、諏訪市の教育改革の一環として行った。これを検証・評価しながら南部地区西部地区を考えていく。四賀小、中洲小の老朽化の問題もある。ただ、すぐというわけにはいかず、課題の把握・整理をしていくことが必要。新しい建物の建築など今は具体的なことは何とも言えないが、南部地区の子供たちのためにいい学校を作っていきたい。小中一貫教育は、文部科学省の教育計画の中で、今東部地区で始まっている。令和5年度からは、他の地区についても同じ歩調で教育の中身について進めていく。

【副市長】

金子市長のマニフェストに、透明度日本一のまちというフレーズがある。諏訪市が持っている様々な情報、取り組んでいることを市民のみなさまに透明度を持ってお伝えしていきたいという願いの現れ。ここで暮らすみなさまが何を考え、何を願い、どんな思いでいらっしゃるのかお聴きする意味もある。そういう意味で、コロナ禍ではあるが、このような形で開催させていただいた。今日言い足りないことなどあればメールや手紙、ファックスでいつでもお寄せください。市長あての手紙などは全て必ず市長が読んでいる。必要なものはご返事申し上げている。遠慮なくお寄せいただきたい。(閉会)

.....

開催日時 : 令和3年7月6日(火) 19:00~20:25
開催場所 : 文化センター(第一集会室)
参加者数 : 40人

.....

【市長】

諏訪市には様々な魅力があると思う。みなさんに諏訪の魅力について聞いてみたいと思う。

【発言者】

やはり自然。涼しい。美しい景観。

【発言者】

諏訪湖。そのコントラスト。諏訪湖が最も魅力。

【発言者】

文化の発祥の地。美術館。この文化センターも貴重な文化遺産。

【発言者】

諏訪湖。湖のある都市は他にもあるが、湖の周りに人が住んでいるまちが近接してある。ぐるっと湖の周りに輪になって市町があるところがいい。

【発言者】

湖周のウォーキングロード。歩くと気持ちがよく、今アジサイがとても綺麗。いい所に住んでいるなど思う。

【発言者】

やはり諏訪湖。どこへ行っても水がある。

【発言者】

産業が魅力。ブランドがある。

【発言者】

温泉。

【市長】

諏訪湖の湖面の標高は759メートル。日本列島で人が住んでいる所と比較すると、高いところにある。まさに高原の位置。高いところにある湖は青木湖、猪苗代湖など日本にたくさんあるが、諏訪は高原の湖の周りに都市機能がある。病院、工場、官庁、銀行、学校といったあらゆる都市機能がセットされているのは諏訪湖周だけではないか。

(市長より第六次諏訪市総合計画について説明)

【企画政策課長】

参考に、諏訪市が始まったころの昭和47年の一番初めの第一次総合計画ではどんな将来像を掲げていたかという、「美しい自然と前進する人間が調和し、明るく豊かで、善意と友情に溢れ、気品と文化に満ち、そして、清潔で安全と活力溢れる人間都市」。現在の第五次総合計画では、「自然の恵みと地域の活力が調和する、優しさとふれあいのまち諏訪」としている。みなさんがどう感じるかをお聞きできればと思う。

【発言者】

図の上が将来像、下が基本方針だが、それを考える時、下から上を考えたか、それとも上から下にと考えたか。

【企画政策課長】

将来どんな諏訪市を目指すのかということが一番先にあり、それを目指していくために実現するにはどんな目標を掲げればよいか。さらにそれを実現するためには細かくそれぞれがどういう行動を取ればよいのかということが基本方針。ということで、まず上を描いてそれを下に繋げていくというイメージで作っている。

【発言者】

図を見た時、下から上に考えたのではないかと予想して質問した。上から下に向かって考えたのであれば、逆に切り捨てた部分もあったのかなとも思うが。

【企画政策課長】

切り捨てるということではないが、基本方針はこれまで39項目あった。それを本当に必要なものということで精査して、33項目に再整理した。

【発言者】

諏訪市は、電線の地中化が遅れている。33分野あるが、電線の地中化について考えてみると、インフラ、環境、防災に関係してくると思う。羅列して書いてあるとピントが掴みにくい感じがする。具体策を示してこことここがリンクして相乗効果となるようにすれば、わかりやすいのではと思う。電線地中化について具体策も教えて欲しい。

【企画政策課長】

電線地中化については、33項目のうちのインフラの都市空間に記載していく。中身については今協議をしているが、現状は、課題は、どんな施策を打っていけばいいのかなどについて組み立てて行く予定。

【市長】

諏訪市は、全国市長会の無電柱化推進の市長連盟メンバー。長野県では佐久市長が

理事になっており、一緒に取り組んでいる。取り組む姿勢はあると認識いただきたいが、諏訪の場合は、地下水位が高く無電柱化が難しい部分がある。例えば、駅前の商店街は共同溝化を進め地中化ができたが、それには国交省から膨大な支援をもらい行うことができた。今、技術革新中だと思うが、諏訪地域に合った技術が発達してくれば可能性がもっと広がると思う。ハードルが高い現状にあるということをご理解いただきたい。

【発言者】

基本方針33項目の中に、芸術文化の振興が必要だと思う。音楽堂・小ホールといったものも加えてほしい。もう1つ、水辺のまちといった目線で、水をどれだけみんなが楽しめるか。諏訪湖だけ一点集中ではなく、諏訪湖に流れている川、その周辺の環境まで見つめていく必要があると思う。

【企画政策課】

芸術文化は非常に重要なことと思う。芸術文化の要素は基本方針33分野の中では、生涯学習の中に位置付けている。水辺のまちということで、環境と観光の面から考えていく必要があるが、環境の側面は環境保全、森林保全に位置付けている。観光という観点では、産業の部分の観光に位置付けている。

【企画部長】

川の活用、計画については、かわまちづくり計画により、長野県、岡谷市、下諏訪町と一緒にやっている。川には防災の観点もある。諏訪は水に恵まれたエリアではあるが、近年は雨の降り方が異常なこともあり、水の怖さも含め、川をどのように活用していくか考えていきたい。

【発言者】

魅力の架け橋 高原湖畔都市、すごくいいイメージ。諏訪と聞いた時、どういうイメージを持つかが大切。先ほど他の方が言われたように、目玉として、芸術とか、水のまちとか、パッとイメージできるようなものがあるともっと良くなる気がする。人口5万人足らずのお金がない市が、いろいろなものをたくさんやろうとするのは難しい。どこに重点を置くかメリハリをつけることが大切。

【企画部長】

様々な魅力を相乗的に効果を上げることを、この計画の目玉としているところもある。架け橋という言葉の中に、いろいろなものを繋ぐ意味が込められており、いろいろな人たちの魅力をつなげ諏訪市の魅力アップをし、それが地域ブランドに繋がる。そういう作り方をしている。ご理解いただきたい。

【発言者】

先程、芸術文化は生涯学習に位置付けているという回答があった。生涯学習が芸術文化の中に入るのはわかるが、生涯学習の中に芸術文化が入るのは違う。検討してほしい。芸術文化は経済より大事だと言う方もいる。経済は文化があって魅力が出てくる。芸術文化により人々が感受され人生が豊かになる。

【市長】

芸術文化が豊かなまちこそが、豊かになると思う。経済的な豊かさは、芸術文化のバックグラウンドとして必要。この地域には、いろいろな芸術をたしなむ方がたくさんおられ、そのことがこの地域の豊かさの根底にあると思っている。生涯学習の中に芸術文化の振興を書き込んでいくという趣旨で捉えていただきたい。

【企画政策課長】

実現すべき6つの重点目標の1つに、みんなに愛のあるライフステージ実現がある。文化、芸術、スポーツなど、それぞれがライフステージの中で生き、それぞれの価値に応じて、住みやすい、いい街だなと思えるよう、目指していけるように理想を掲げていかなければならないと思う。

【市長】

ここからはフリーテーマとして、意見交換したい。

【発言者】

100年に1度と言われる大災害が毎年各地で起こっている。幼稚園でSDGsに取り組んでおり、子供たちと諏訪湖清掃している。拾ったごみに苗のポットがたくさんあった。幼稚園の給食の残食を無くそう、フードロスゼロということで、みんなでがんばって残食がなくなる方向に来ている。どうしても残飯として出てしまった場合は堆肥にしている。その堆肥を使って子どもたちと花を育てて、地域にお配りしたり、幼稚園の前に花の苗を置いて、興味のある方にお持ちいただいている。先日、園児の育てたその花を市役所に置かせてほしいとお願い行った時、担当者から邪魔にならない所に置いてくださいと言われ、悲しい思いをした。

【市長】

子どもの頃からそうした意識を醸成する素晴らしい活動をしていただきありがたい。SDGsに向かって行動していることは素晴らしいことと思う。市民環境部でごみのリサイクルなどに取り組んでいるが、SDGsは全ての部署が関わること。職員全員がSDGsの担当者ということで進めて行きたい。

【市民環境部長】

SDGsに向かって実行していただきありがたい。SDGsは17の項目があり、

環境はもちろん、貧困など様々なものが入っている。市全体として取り組み、全部署が担当ということで進めて参りたい。

【企画部長】

花の苗の活動について、悲しい思いをさせてしまい申し訳ない。大変お恥ずかしい話。市職員の対応について徹底していきたい。

【発言者】

東バルの跡地はどうなっていくのか。諏訪地方の工業発展の元。建屋は文化遺産。群馬県に富岡製糸工場跡地があるが、素晴らしい文化遺産として残っている。

【市長】

有識者会議により基本構想を作っていたが、現在、基本計画を策定中。

【副市長】

基本計画の案については、7月2日まで市民のみなさんにパブリックコメントを求め、意見を伺っている。多くのご意見を頂戴しているので、反映できる意見は反映して、最終的な基本計画は遠くないうちにお示しできる。

【発言者】

建屋をどうするかは、みなさんから意見を聞きながらかと思う。大きな建屋を使うのは大変難しいと思うが、多くの先輩たちが喜ぶようにしてほしい。

【市長】

参考にさせていただく。

【発言者】

要望が2つある。

1つ目は、諏訪湖周にチンチン電車を走らせて欲しい。内回りと外回りで1日中走らせて欲しい。土地を買ってレールを敷いてといった大げさなものでなく、ゴルフ場のカートのようなものを2台用意して、内回りと外回りで回す。ちょっと乗って岡谷まで行ってみようかという気になれる。観光客は喜んで来ると思う。今、湖周サイクリングロードを整備しているが、その延長として考えて欲しい。自動運転でAIが運転してくれれば人件費がかからない。

2つ目は、東バル跡地に大規模なリハビリセンターを作ってほしい。需要は確実にあるので採算ベースに乗ってくる。中途半端なリハビリセンターではだめ。大規模なものを作れば、周辺にホテルなどできる。

【企画部長】

湖周サイクリングロードについては、令和5年度の完成予定で、諏訪湖一周繋がる。サイクリングロードが全て整備できた後、検討していくということにさせていただきたい。東バル跡地にリハビリセンターについては参考にさせていただく。

【発言者】

限られた税収、限られた人口、限られた職員の中でどのように優先順位をつけてやっていくのか。緊急性の高いものもあると思うが、子供たちが安心できる諏訪市になるようにしてほしい。

【市長】

総合計画もそうだが、他に様々な計画がある。実施計画という3年向こうまでを見据えた計画もある。これらを基に毎年、次年度の予算を編成している。市の年間の当初予算はおよそ200億円。税収はその3分の1くらい。その他、国や県の補助金、国が配分する交付金がある。特別会計は別にして、そうした資金を活用しながら、限られた財源の中で優先順位をつけてやっている。お金があれば1年でできる事業が、3年かかってしまうこともある。ご理解いただきたい。

【企画部長】

お金が一番大事な要素だが、今このタイミングで何が一番市民にとって必要なのかを考えている。市長が目指すマニフェスト、政策も同様。今はコロナ禍なので、その対策を最優先している。タイムリータイムリーに必要なものが何なのか、それが優先順位だと思う。コロナ禍が明けた後は、経済活動を中心に考えている。

【副市長】

コロナの状況下で、どのような形で懇談会をやるべきか迷ったが、このような形で開催させていただいた。今日の懇談会は、来年度から5年先の諏訪市の大きな方向性を定めた計画の基本的な考え方についてお話をさせていただいた。今から5年前に、今のコロナに見舞われたこの状況を予測できた方はいないと思う。同じように、今から5年先の状況を見渡すことは難しいと思うが、みなさんからいただいた意見を参考に計画を作っていきたい。（閉会）

.....

開催日時 : 令和3年7月7日(水) 10:00~11:18
開催場所 : 文化センター(第一集会室)
参加者数 : 26人

.....

【市長】

諏訪市には様々な魅力があると思う。みなさんに諏訪の魅力についてまず聞いてみたい。

【発言者】

諏訪市は諏訪の中心。高島城があり行政の中心であった。

【発言者】

諏訪大社上社。温泉。山もあり静か。

【発言者】

諏訪湖。諏訪湖の管理は大変だが、どのように管理していくかも大事。霧ヶ峰もある。湖と山があり、自然環境がすばらしい地域。

【発言者】

諏訪湖。諏訪湖から眺める夕日。小学生の時に、魚を捕った思い出がある。湖、山といった自然環境。神社がたくさんあり、歴史があり観光資源もある。ほかにもたくさんあると思う。再発見していきたい。

【発言者】

温泉。共同浴場で近所のみなどと話ができる。

【発言者】

立石公園から諏訪湖へのロープウェイを研究してみたらどうか。

(市長より第六次諏訪市総合計画について説明)

【企画政策課長】

参考に、昭和47年当時、一番はじめの諏訪市総合計画の将来像は、「美しい自然と前進する人間が調和し、明るく豊かで善意と友情に溢れ、気品と文化に満ち、そして、清潔で安全と活力溢れる人間都市」。いろいろな要素が入っている。現在進行中の第五次諏訪市総合計画の将来像は、「自然の恵みと地域の活力が調和する優しさとふれあいのまち、諏訪」。今回は「魅力の架け橋 高原湖畔都市」。覚え

やすさという点では、かけ橋と都市が韻を踏んでいたり、言葉のリズムを重視している。

【発言者】

将来像は少し硬い感じもするが、高原湖畔という表現はいいかなと思う。魅力のかけ橋は、いろいろな要素が繋がって結果が出てくるということで、ここにある基本方針をうまくやって、住みやすい美しい諏訪にしていくことが大事。昭和47年の将来像も、今回聞いた将来像も言っていることは同じ。全ての条件がそろっているのが諏訪だと思う。新たなものを造るのではなく、いかに今持っているものを活用して発揮していくかが大事。新しいことに目を向けなくても、要素は全てそろっている。限られた予算の中で、短期的に見ていくとできることは限られてしまう。10年かけてどういう結果にしていくか、繋がりを持ったものにしてほしい。

【発言者】

6市町村の合併はどうなっているか。消防は広域になり、国から予算が降りてくるようになり、大型機械や消防車が配置され、生きがいを持って働けるようになったと聞いた。6市町村は合併しないと大きなことができない。

【市長】

合併するべきという声は、今もあちこちから聞こえてきている。前回合併ができなかったことは残念に思っている。合併するという事は、それぞれの市町村が持っている仕組み、財政、職員など整えていかななくてはならないものがたくさんあり、大変なお金が必要となる。平成の大合併では、国がお金を出すということで推奨されたわけだが、当時の6市町村の住民の皆さんの結論は、合併を選択しなかった。今はそれを尊重した形で引き継いでいる。すぐに合併ができるわけではないので、チャンスが到来するまでは今の枠組みで進めていくが、市町村単独では立ち行かないこともあり、6市町村で一緒に取り組んだ方が効果的なことがいくつもある。それが一部行政事務組合という枠組み。広域連合において、介護保険、消防、福祉施設の運営など15項目の事務を一緒にやっている。ごみの処理についても岡谷市と下諏訪町の2市1町で、し尿処理施設は茅野市と運営、火葬場についても、富士見町まで含めて共同して運営している。合併については、住民の合意が得られなかったということで、ご理解いただきたい。

【発言者】

もっと温泉を利用してほしい。長距離トラックの運転手が、すわっこランドやいきいき元気館の温泉に入りたいと言った時、消防法か何かにより、駄目と言われたと聞いた。可能になるようにしてほしい。

【企画部長】

すわっこランドの食堂は、すわっこランドに入館した人たちのためのサービスということで、消防法の絡みで外から食堂だけ利用する人は入館できないことになっている。公共施設はそういった事情があることもご理解いただきたいが、地区の温泉や、他にも温泉に触れる機会は様々ある。また、エリアによっては自宅に温泉を引ける所もある。温泉の活用については、様々な取り組みをさせていただいている。

【市長】

温泉は大切な天与の恵み。多くの市民のみなさんが享受できるように磨きをかけていきたい。

【発言者】

6市町村合併しないと最終的にはうまくいかない。最終的には諏訪市が中心になると思っている。東バルの跡地に県の合同庁舎と6市町村の総合庁舎を建ててはどうか。

総合計画の説明で様々な基本方針を挙げてもらったが、何をやるのかもっと絞った方がよい。限られた財源の中で使えるお金は多くないと思う。道路の維持修繕、整備などに必要なお金、自然に出て行くお金を引けば、使えるお金はそう多くないはず。もっと絞った方がいい。

【市長】

諏訪市は毎年200億円規模の予算。そのうち、約3分の1しか市税などで賄っていない。足りない分は、国の補助金や交付税制度に頼って運営しているのが現状。おっしゃる通り自由になるお金は多くない。そういう意味で、もっとシャープに絞った方がいいのではないかということと思う。まさにその通りだが、総合計画になるので、様々な事業を網羅したものとなるということをご理解いただきたい。

【発言者】

目標が実現すればいいと思うが、財政の問題がある。具体的に何をすればいいのかが一番難しいと思う。国も市もお金がない中どうやりくりしていくか。例えば、超高齢化社会を見据え、超高級介護施設を作る。これは市ではできないので民間投資でやる。諏訪には温泉もある。施設入居の家族が泊まれるホテルもたくさんある。こういった環境を利用して雇用も創設できる。

【市長】

おっしゃる通り。民間の力を取り入れて投資を呼び込んでいきたい。計画の中の実現すべき重点目標に「人と投資を呼び込む。」としている。

【発言者】

計画期間を5年に短縮したのはいいこと。10年先などという時代でない。基本方針がいくつもあり、捨てきれないのは当然だが、33分野のうち、これを重点的にやるということを明記していかないとなかなか進んでいかないのではないか。諏訪地域、広域、合併のことも考えないといけない。合併をするのは非常に体力が必要で、課題が多いことも想像できる。そう考えると、今置かれている状況をどう利用して、それを6市町村の中で位置付けしていかなければならない。総合計画を具体化するの難しい話なので、計画の中身はこういう形しかないのだろうとも思う。特にコロナ禍の後、どんなことが起こるか全く予想つかない。コロナの後のことも考えながら様々な計画をつくってもらいたい。

【市長】

行政のことを内側からよくご存知で、参考にさせていただく。
6市町村についてその通りだと思う。合併しなかったからといって、5万人を切る自治体だけで考える時代ではない。最低限、諏訪圏域でという考え方は大事なこと。

【市長】

ここからはフリーテーマとして、意見交換したい。

【発言者】

ここに座っておられる部局長は、諏訪の5年先は大体こうなるだろうと実はわかっている気がする。入所5年10年の若くて頭のやわらかい人の意見を取り入れていくことが必要。

岡谷市には大きな体育施設、茅野市には運動公園、陸上競技場がある。諏訪市はどうかというと、これといったものがないように思う。

【市長】

例えば総合計画を作るにあたり、若手職員と市民でワークショップを行い、計画の骨格を作っている。

【企画政策課長】

その若手職員市民のワークショップは、35歳以下の若手職員23人と市民13人で5つのグループに分かれ、10年後の諏訪市といった意見交換をしてきた。その中で、魅力の架け橋や、高原湖畔都市といったキーワードが生まれてきた。基本方針33分野について、具体的にどんなことをやっていくか若手職員の意見も取り入れながらと考えている。若者の視点を忘れずにやっていきたい。

【発言者】

市の組織として、専門知識や資格を持っている人を部課長にするべき。例えば、国の補助金制度について全てわかっている人など専門知識を持った人。トヨタ自動車は、技術職の最高の方は役員と同じ給料。エプソンは、資格を持っている人が部課長になれる。市も資格を持った人が部課長にといったシステムに変えていくことが必要。

【副市長】

確かに専門知識を持った職員のほうが、市民の方にいろいろアドバイスしたり説明する場合、一番望ましいと思う。その一方で、市職員として採用し、市全体の仕組みや、中身を理解した上で活躍をしてもらいたいという採用側の思いもある。様々な分野を経験することにより知識経験を増やし、活躍する人材に育っている面もあるので、その両面を見ながらだと思う。ご理解いただきたい。

【市長】

たくさんの方に参加いただき、参考になるご意見を賜った。行政全般の参考にさせていただきたい。市民と一体で手をつないで一緒にまちを良くしていくことを理想として取り組んでいきたい。みなさんに感謝申し上げます。

【副市長】

6月24日から始まり今日で6回目の最終回。たくさんのご意見をいただきありがとうございます。人口が減っていく中で財政も厳しくなる。何でもかんでもできる時代ではなく、狙いを絞りメリハリをつけ、拾い上げるものと残念ながら捨てていくものもあるのではないかという意見をいただいた。何年か前の市政懇談会では、これがほしい、ここを修繕してほしい、これを造ってほしいという意見がたくさん出た。今回の市政懇談会を通して、市民のみなさんにも市の現状が伝わっており、同じ目線でこれからの諏訪を考えていかれるという思いがした。(閉会)